



# ふれあい



写真 島岡 理

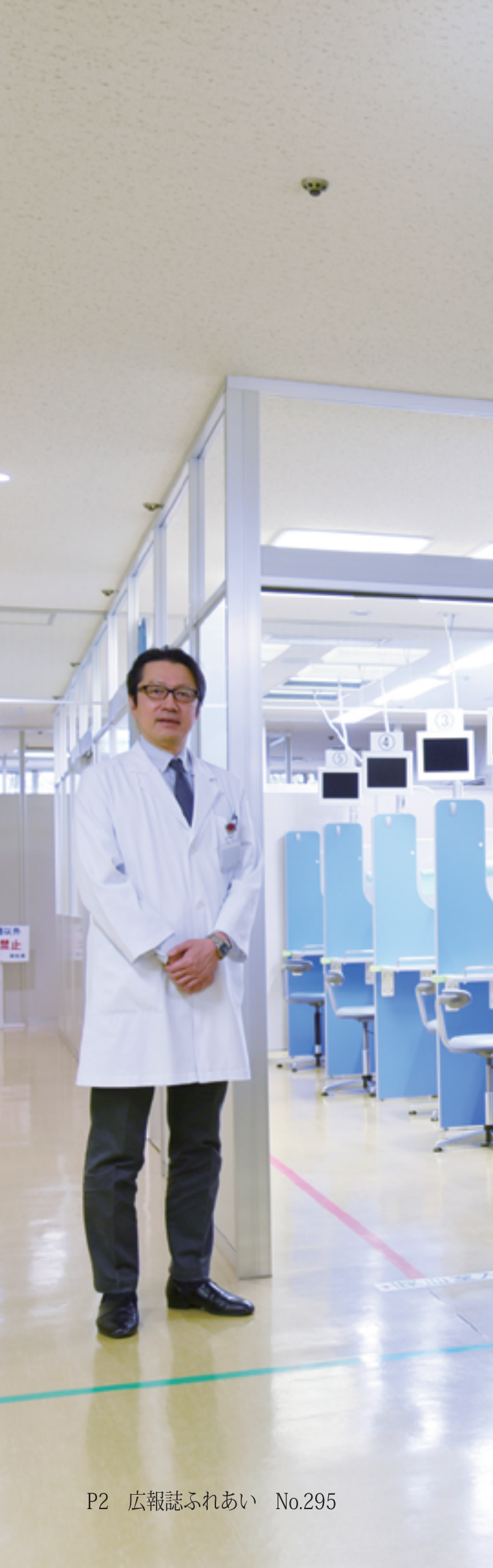
## 【もくじ】

幸福を守り育てる希望郷いわて～新年度のご挨拶～	院長	宮田 剛	・・・2
採血システムについて	臨床検査技術科主査臨床検査技師	工藤 奈美	・・・3
透析室の増床と腎センターの紹介	腎臓リウマチ科医長	中村 祐貴	・・・4、5
	ICU 看護師	佐々木 幸夫	・・・4、5
	臨床工学技術科主任臨床工学技士	山口 望実	・・・4、5
「食事の工夫」について	栄養管理科長	山崎 久美子	・・・6
2 年次研修医の修了にあたって	医療研修部長	池端 敦	・・・7
世界一小さな絵画展	医療研修部次長・血液内科長	村井 一範	・・・8
編集後記	広報委員長（小児外科長）	島岡 理	・・・8

## 基本理念

高度急性期医療を推進し、県民に信頼される病院

※広報誌「ふれあい」は1,800部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。



## 幸福を守り育てる希望郷いわて ～新年度のご挨拶～

院長 宮田 剛

日差しも春めいて、岩手山の残雪をまぶしく照らす爽やかな季節となりました。令和4年度の初めに当たりご挨拶申し上げます。

長い冬が明ける喜ばしい季節のはずですが、ウクライナでの戦闘、頻発する地震、新型コロナウイルス感染症等なにかと憂いの多い世の中です。3月には当院でも付設保育所でのクラスター発生によって職員の自宅待機者が急増し、病院機能の大きな支障を来してしまいました。感染連鎖の中で重症者が出なかったことは幸いでしたが、当院の病院機能を十分に果たせない期間を作ってしまったことは深く反省しなければならない事態でした。ご不便をおかけした皆さまに心よりお詫び申し上げます。

岩手県は、2019年から2028年までのいわて県民計画のなかで、『東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて』を基本方針としています。達増知事のご挨拶にも度々触れられておりますのでご存知の方も多いと思いますが、この「幸福」をキーワードにした政策は、日本計画行政学会という学会で2019年に特別賞を受賞するほどのユニークなものであり、幸福の実感に関する県民の意識調査に基づいて、12領域の施策に分けられています。「幸福」という言葉に現実離れた夢物語のような印象を持つ方もおられるかもしれませんが、私個人としてはとても重要な観点と感じており、大好きな方針です。この中でも、健康に関する領域は重要な位置を占め、県立病院は県民の健康寿命を伸ばし、健康上の不安を解消できるような体制を作る役割を担っています。

今年度から当院は救命救急センターとして県の認可を受けました。これからもいつでも救急車を断らない方針で社会の安心、ひいては県民の幸福に貢献してまいりたいと思います。また地域の医療機関との効率的な連携の中で患者さんの早期健康回復へ繋げる枠組みを推進してまいります。

戦争、パンデミック、天災に際し、改めて感じたのは「情報のあり方」でした。この不確実で不安定な世の中で必要とされる情報はなにか、不安を煽る情報はなにか。個々の患者さんにお伝える情報、病院として病院内外に発信すべき情報、また確実に受け止めるべき情報はなにか、納得していただくための情報のあり方を吟味していくつもりです。

今年度の皆様の健康を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。これからも当院に対し、忌憚のないご意見をいただければありがたく存じます。どうぞよろしく願いいたします。

# 「採血システムについて」

臨床検査技術科主査臨床検査技師 工藤 奈美

当院で3月22日より稼働した2階採血室、および採血室システムについてご紹介いたします。

(写真1)

## 1 採血受付：自動受付機の導入 (2台) (写真1)

再来受付により発行された「患者案内票」または診察券を用いた自動受付機での採血受付が可能となりました。採血の整理券に併せ、尿検査がある場合は採尿カップも同時に発行されます。

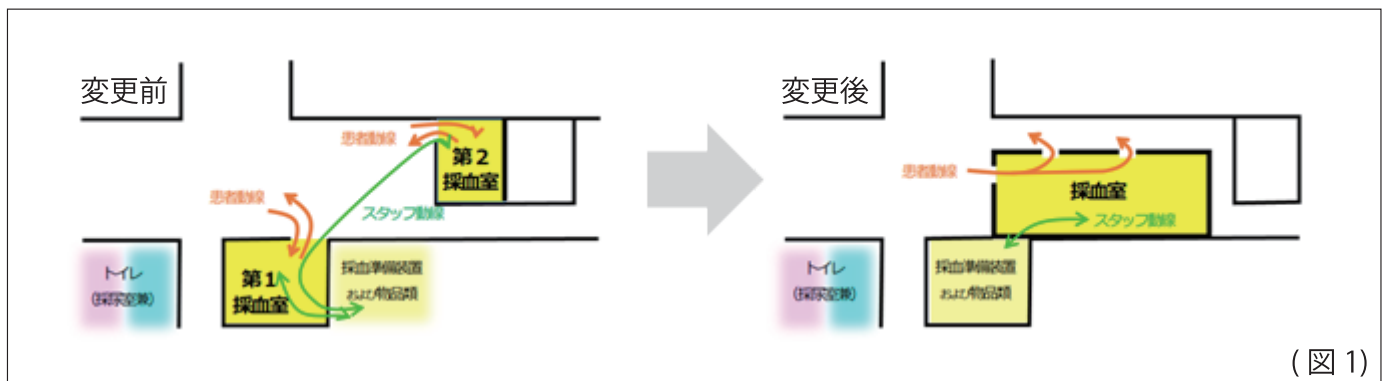


## 2 採血室レイアウトの変更 (図1、写真2)

患者とスタッフの動線を分離し、かつ患者の動線が一方向になるように採血台を配置しました。また、すべての採血ブースで車椅子対応可能としました。

## 3 患者呼出から採血終了までのチェック機能の強化

発行された採血管がすべて揃っていることが確認された時点で患者を自動で呼び出し、



(図1)



(写真2)

受付時の整理券と患者氏名・生年月日のダブルチェックによる本人確認後採血を実施、採取後に本数の確認を行う（採取漏れを防ぐ）ことで採血終了となります。この一連のチェック機能には、ICタグ内蔵検体ラベルが使用されています（RFIDシステム）。

## 4 各トイレに尿提出場所を設置 (写真3)

同じくRFIDシステムを用いて、採尿または自宅から持参した尿を入れた尿カップを提出場所に置くと、検査室では患者名と置いた時刻からの経過時間が表示され、長時間放置することなく検査施行可能となりました。

(写真3)

## 5 検査所要時間 (TAT) の評価

これまで行っていた検体到着から結果報告までの時間の評価に加え、採血から結果報告までの時間の評価も可能となりました。

稼働後3週間が経過しましたが、動線分離による効果は大きく、採血開始2時間で180件も捌いておきながら余裕の表情の担当者を見て涙が出そうになりました。

これは、前月（稼働前）に比べ、担当者一人当たりの採血所要時間が約半分に短縮した計算になります。自動受付方法が定着するまではまだまだ時間が必要ですし、新たな問題点や想定外の事例に対応する日々が続きますが、患者さんからも「わかりやすく良い」というお言葉をいただき、先生方や携わるスタッフからも評判がよく、現在のところ、大きなトラブルなく稼働しております。



# 透析室の増床と



「当院における透析室の増床と腎代替療法の状況について」

腎臓リウマチ科医長 中村 祐貴

当院の透析室は基本的には入院患者さんにのみ対応しています。透析管理は当初、当科と泌尿器科合同で行っていましたが、2007年からは当科単独で行うようになりました。透析ベッドは患者さんの増加に伴い、1症ずつ増床し、2016年からは7床で運営してきました。しかし、この間も心臓病、脳卒中、悪性疾患など様々な合併症治療のために当院に入院される透析患者さんは増加し、7床では手狭になっていましたが、本年1月に増床工事が完了し、14床に拡張しました。透析機器も全て一新され、より効率的なOnline-HDFやI-HDFに対応可能となりました。今後は広い快適な透析室で増え続ける透析患者さんの入院にきちんと対応できることが期待されます。透析関係の病院様には当院とより密に病診連携いただけますよう何卒よろしくお申し上げます。

2019年からは生体腎移植を開始し、2021年には8件実施することができました。当院では血液透析、腹膜透析、腎移植という3つの腎代替療法の全てを行える環境にあり、腎不全患者さんの様々なニーズに的確に対応できるように努めています。また、近年、患者さんとともにShared Decision Making (SDM) と呼ばれる共同意思決定を経て、腎代替療法を決定することが推奨されています。盛岡市医師会様、岩手医科大学様と共同で腎臓専門医への紹介基準も作製していますので、対象となる慢性腎臓病患者さんのご紹介をお願い致します。新装した明るい透析室で、今後もスタッフ一同、一致団結して県民の皆様に貢献したいと考えております。引き続き当科の運営に御理解・御協力頂きますよう何卒よろしくお申し上げます。

「透析室担当看護師から」

ICU 看護師 佐々木 幸夫

当院の透析件数は平成21年度1922件から令和3年度4288件へ増加しております。当初5床であった透析ベッドを平成27年に7床へ増床しました。しかし、日中の透析スケジュールでは対応できず夕方スタートの夜間透析になることが多く、場合によっては消灯時間の21時を過ぎることもあり、患者さんをはじめ多くの方々へご不便をおかけしておりました。そこで、令和4年1月に14床へ増床する工事が終了し同時に透析できる人数を段階的に増加しながら対応しております。

当院の透析室の役割は、循環器疾患や脳血管疾患、消化器疾患、整形外科疾患など様々な疾患で入院し、検査や手術など様々な治療を行う必要のある患者さんへの透析治療です。また、新たに透析導入を行う患者さんや、シャント閉塞などシャントトラブルの治療が必要な患者さん、腹膜透析と血液透析を併用している患者さん、近年では生体腎移植までのつなぎとして透析を行う患者さんなどへ必要な期間の透析を行っております。当院の透析患者さんの特徴として挙げられるのは、緊急入院が多く、頻回に状態観察や介助が必要であり、約7割の患者がベッドや車いす移動です。様々な治療や検査の合間に透析を行っており、透析室と



# 腎センターの紹介

病棟の連携がスムーズにいくよう配慮しております。また、透析導入患者さんが地域の透析クリニックへ転院となるまでのつなぎとして外来透析が行われており、腎臓リウマチ科外来と連携しながら対応しております。

透析室で大切にしていることはチーム医療です。透析室を構成しているスタッフは腎臓リウマチ科医師をはじめ、臨床工学技士、ICUや病棟担当の看護師、看護補助者、薬剤師などの多くの職員で構成されております。朝のスタッフミーティングを充実させ、安全な透析環境の提供に努めております。透析開始後に医師や、臨床工学技士、看護師の三人でタブレットを用いた透析ラウンドで指示内容のチェックを行い、指示間違いがないか確認し治療方針の共有も行っております。また、当院の不規則な透析パターンに対応できるように、外部の業者と連携して当院独自の電子版透析スケジュールシステムを導入しスタッフ間の患者情報共有に役立つよう努めております。

最後に、日頃より透析導入患者さんの受け入れに協力していただいている地域の透析クリニック皆様へ感謝を申し上げます。これからも急性期医療が提供できるよう地域の透析クリニックとの更なる連携を強化し、透析患者さんの透析環境の充実やQOLの向上へつなげていきたいと考えます。



## 「新透析室の紹介」

臨床工学技術科 主任臨床工学技士 山口 望実

現在、当院では透析導入や急性期医療をメインに透析治療を実施しておりますが、血圧低下など循環動態が不安定な患者様が多く、このたびは間歇補液療法「IHDF」という治療を導入致しました。

間歇補液療法「IHDF」とは、透析膜を介して定期的に透析液を逆濾過によって血液内に補液し、補液された透析液は30分毎に身体から回収するといったことを繰り返す治療方法です。この治療は従来の血液透析と比較し、定期的に行われる補液により末梢循環障害が改善され、除水に伴う循環血漿量減少に伴う血圧低下を予防できることが期待されます。また、定期的な補液（逆濾過）により透析膜の目詰まり、透析膜性能の経時的変化の抑制により溶質（毒素）除去率の亢進が期待されています。

また、当院では腎移植を実施しており、血液型不適合腎移植に対する二重膜濾過血漿分離交換法（DFPP）や血漿交換療法（PE）も実施しております。

その他、重症筋無力症などの指定難病に対する特殊血液浄化治療にも対応しており、血漿吸着療法（PA）、血液吸着療法（HA）など各治療幅広く対応できるよう努めています。

また、2021年度よりLDL及びフィブリノーゲンの吸着による血液流動性の改善により、閉塞性動脈硬化症の末梢血液循環の改善を導き難治性潰瘍を治療することを目的としたレオカーナも導入致しました。

今後とも安全な透析治療は基より、多種多様な血液浄化治療に対応し、県民の皆様に満足して頂けるよう透析スタッフ一同一丸となって日々尽力し、適切な医療の提供に寄与したいと考えております。





## 「食事の工夫」について

栄養管理科長 山崎久美子

栄養管理科では、「安心・安全でおいしい食事を通して、適正な栄養管理・給食管理を実施し、チーム医療に貢献します」を理念に入院患者に食事を提供しています。R3年11月に実施した満足度調査では、満足・普通86%、不満4%、無回答10%でした。

病院の食事は、「治療の一環」です。365日、1日約1,200食作ります。ご飯の硬さやみそ汁の濃さ等は、誰が作っても毎回同じ状態に仕上がるように、炊飯は、米の状態、浸漬時間、炊く時の水の量、味噌汁は味噌・だし汁の量、具材の種類・量、加熱時間等を考慮しています。

入院患者で生活習慣病の方には、病院の食事を食べて食事療法を体験していただきます。献立は、退院後も食事療法を継続していただきたいので、「これならできる！やってみようかな！」と思っただけのように考えています。入院当初は「おかずの量が少ない」「ご飯の量が多い」「味が薄い」等の感想を伺いますが、食べる前に口の中や舌をきれいにして、ゆっくり噛んで食べるようにすると、唾液が出て、味を感じ易くなります。約2週間継続する間に「口」が病院の食事に慣れてきます。(慣れない場合もあります)

また、病院の食事は、毎食、患者に提供する前に医師等が、患者に適した食事がどうかを検食します。「検食簿」という書類が有り、評価を記録します。評価をもとに、献立の見直しを行い、次の提供時に反映しています。

患者には、がんの治療を受けている時や受けた後、においが気になる、口内炎ができて沁みる、嘔気・嘔吐で食欲が落ちたり、下痢・便秘になることもあります。このような時は、管理栄養士が食事調整や栄養食事指導を行い、栄養状態を維持し、治療や仕事を継続できるように栄養管理のサポートをします。食欲がない時は、小さい器に食べられる量を盛ると完食できた喜びを感じられたり、においが気になる時は、食事を全て冷たくするとにおいが和らぎます。口内炎がある時は、酸っぱいものや辛いもの、濃い味のもののはだし汁で薄めたり、唐揚げやフライの衣は堅いと刺激になったり、口の中を傷つけるので、卵でとじたり、だし汁で煮て柔らかくします。

四季折々の食材を取り入れた「岩手県産食財の日」や、出産祝い膳、誕生祝い、100円の追加料金で好きな献立を選んでいただく「特別メニュー」も実施しています。

生きている間、人は食事をします。病院の食事は集団給食の制約はありますが、患者一人一人の喜ぶ顔を思い浮かべ、これからも科員一同、心を込めて食事を提供していきます。





## 2 年次研修医の修了にあたって

医療研修部長  
池端 敦

令和 4 年 3 月 18 日、初期臨床研修医修了式が執り行われ、当院での 2 年間の臨床研修を終えた初期研修医 15 名が晴れの日を迎えました。大変喜ばしく思います。修了証書授与式の前に修了報告会が行われましたが、今回は初めての試みで Web 開催となりました。目の前に観客は見えませんが、2 年間の思い出、今後の進路などを報告した後、例年どおり指導医からの温かいコメントがありました。コロナ禍に始まり、コロナ禍に修了した世代でした。また、医師臨床研修ガイドラインが改定され、新しいガイドラインのもとで研修が始まった最初の世代でした。到達目標として、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）4 項目、資質・能力 9 項目、基本的診療業務 4 項目が設定され、病棟研修が主体の診療科研修のなかで、一般外来診療が必修化されました。研修期間の 2 年間で、経験すべき症候（29 症候）、経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）の経験と、感染対策、予防医療、虐待、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング、臨床病理検討会が必須項目となりました。年 3 回の形成的評価の面談では、ひとりひとりの成長の過程をみることができた世代でした。研修最初の 4 週間に行われるオリエンテーションではコロナ禍の影響で大半の期間が自宅待機となり、イーハトーヴ研修病院群の県合同オリエンテーションは中止され、各種レジナビフェアも中止され、各県人会での病院紹介は Web 開催が主体となりました。2 年次には、地域医療研修、精神科研修や献血者検診研修は例年どおり行われましたが、例年 6 月に院外泊まりがけで行われる進路相談会は今回も院内開催となり、9 月の県合同のレジデントスキルアップセミナーは院内で Web 開催となりました。

また、医学生の病院見学は制限され、院内職員との飲食の機会も制限されたため、医学生や院内多職種と十分に交流する機会は少なかったように思います。そのなかで、医師会や他施設の職員とともにワクチンの集団接種を行う機会に恵まれたことは貴重な経験であったことと思います。2 年間を通じて、死亡症例検討会、プライマリーケアセミナー、救急症例検討会など、多くのセミナーの開催が制限されるなか、救急センターや診療科では屋根瓦式の指導体制により、指導医から指導を受け、逆に 1 年次研修医に指導する機会などを通じて、多くのことを修得したことと思います。



出身地も卒業大学も異なる 15 名が研修病院として岩手県立中央病院を選択し、2 年間一緒に切磋琢磨したことは今後の大きな財産となるはず。「集まり散じて人は変われど 仰ぐは同じき理想の光」、これは早稲田大学校歌の一節ですが、この文言のように当院で学んだこと、経験したこと、苦楽をともにした同僚への想いを大切に、自らが選んだ「理想の光」に向かって邁進することを願っています。

## 世界一小さな絵画展

医療研修部次長・血液内科長 村井 一範

皆様、「世界一小さな絵画展」をご存知ですか。

2022年の1月から外来1階の西病棟エレベータホール前で開催中です。

“杜の大橋から見た岩手山”が凛として我々を迎えてくれます。視線を移すとベルギー、スロバキア、ハンガリーそしてルーマニアなどのヨーロッパの街並みが飛び込んできます。これらの作品は、血液内科に入院されているMKさんが入院中にご自分の記憶にある景色や写真集からインスパイアされ、ご自身の表現として絵の世界へと没頭して描かれた作品です。まさにご闘病が芸術に昇華したそんな一場面です。一枚一枚の絵画が、絵を見る人々の心を穏やかにしてくれることと思います。そして最もお勧めの作品は血液内科第3診察室の前にある“いつか見た風景”です。これはご覧になった皆様が、子供の時に旅した海辺の小さな村を思い出されるのではないのでしょうか。とても懐かしく、時間が許す限り見つけていたい、そのような作品です。

これらの絵画は、きっと皆様の1日の疲れた心と体を心地よく回復させてくれることと思います。



なんとも世界は不穏な空気になってきました。地球上には民主主義国家よりも独裁国家が多いという事実にも驚愕しますが、嘘も100人がつけば真実になるという事実がまかり通る国があると思いきや、独裁者が好き勝手に自分に都合のいいように真実を作り出しそれを国民が盲信する国もあって、事実は1つだが真実は無限にあるという現実を目の当たりにされている様ですね。

さて話しは変わりますが、今年も桜が美しい季節となりました。気分が重いときでも桜を詣でると心が休まる気が致します。その8割以上がソメイヨシノとのことですが、日本には変種を合わせると百種以上の桜が存在しているといわれております。ソメイヨシノは明治時代にオオシマザクラとエドヒガンザクラを交配させて東京駒込にある染井という地で作られたとされており、原木から挿し木などで増木されているクローンであるがために一斉に開花するという特徴があり、逆にその寿命は60~70年ほどと決して長くはありません。花の中心部が赤くなってくるのが散る前兆ですが、一斉に開花し一挙に散るのが潔いともはやされるのでしょうか。今年度もよろしく願い申し上げます。戦渦が早く収束し命が軽んじられない世の中になってほしいと願ってやみません。



### お知らせ

当院の新型コロナウイルス感染症対策として、来院時にマスクの着用、手指消毒をお願いしております。

ご不便をおかけいたしますがご協力のほどよろしくお願いいたします。



岩手県立中央病院  
〒020-0066 岩手県盛岡市上田 1-4-1  
TEL:019-653-1151 FAX:019-653-2528  
<http://www.chuo-hp.jp>

ふれあい No.295 令和4年4月  
岩手県立中央病院 広報委員会

◆委員長 島岡 理  
相馬 淳 及川 由美子  
渡辺 道雄 高橋 大輔  
多田 淳子 高千穂 依吹  
小守 理子 高橋 佳代子  
小島 菜奈 藤澤 麻衣子  
高橋 翔子 細川 周平  
多田 純子 吉田 奈穂子

ふれあいはホームページでもご覧頂けます。

[岩手県立中央病院](#) [検索](#)